

IV 患者評価とアセスメント

IV-16. 合併症

大項目	中項目	カルテ・データ	フィジカル・スキル	レベル
□IV-16.1 誤嚥性肺炎	□IV-16.1.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.1.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.1.3 誤嚥性肺炎を呈する患者における離床のリスクを予測できる	□誤嚥性肺炎を呈する患者における離床のリスクを予測できる	□誤嚥性肺炎を呈する患者における離床のリスクを予測できる	☆
	□IV-16.1.4 誤嚥性肺炎を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□誤嚥性肺炎を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□誤嚥性肺炎を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
□IV-16.2 人工呼吸器関連肺炎 (VAP)	□IV-16.2.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.2.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.2.3 人工呼吸器関連肺炎を呈する患者における離床のリスクを予測できる	□人工呼吸器関連肺炎を呈する患者における離床のリスクを予測できる	□人工呼吸器関連肺炎を呈する患者における離床のリスクを予測できる	☆
	□IV-16.2.4 人工呼吸器関連肺炎を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□人工呼吸器関連肺炎を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□人工呼吸器関連肺炎を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
□IV-16.3 急性呼吸窮迫症候群 (ARDS)	□IV-16.3.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.3.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.3.3 ARDSを呈する患者における離床のリスクを予測できる	□ARDSを呈する患者における離床のリスクを予測できる	□ARDSを呈する患者における離床のリスクを予測できる	☆
	□IV-16.3.4 ARDSを呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□ARDSを呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□ARDSを呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
□IV-16.4 深部静脈血栓症、肺塞栓症	□IV-16.4.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.4.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.4.3 深部静脈血栓症、肺塞栓症を呈する患者における離床のリスクを予測できる	□深部静脈血栓症、肺塞栓症を呈する患者における離床のリスクを予測できる	□深部静脈血栓症、肺塞栓症を呈する患者における離床のリスクを予測できる	☆
	□IV-16.4.4 深部静脈血栓症、肺塞栓症を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□深部静脈血栓症、肺塞栓症を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□深部静脈血栓症、肺塞栓症を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆

大項目	中項目	カルテ・データ	フィジカル・スキル	レベル
□IV-16.5 多臓器不全	□IV-16.5.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.5.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.5.3 多臓器不全を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□多臓器不全を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□多臓器不全を呈する患者における離床のリスクを予測できる予防法を列挙できる	☆
	□IV-16.5.4 多臓器不全を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□多臓器不全を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□多臓器不全を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
	□IV-16.5.5 播種性血管内凝固症候群（DIC）を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□播種性血管内凝固症候群（DIC）を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□播種性血管内凝固症候群（DIC）を呈する患者における離床のリスクを予測できる予防法を列挙できる	☆
□IV-16.6 全身性炎症反応症候群（SIRS）	□IV-16.5.6 播種性血管内凝固症候群（DIC）を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□播種性血管内凝固症候群（DIC）を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□播種性血管内凝固症候群（DIC）を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
	□IV-16.6.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.6.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.6.3 全身性炎症反応症候群を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□全身性炎症反応症候群を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□全身性炎症反応症候群を呈する患者における離床のリスクを予測できる予防法を列挙できる	☆
□IV-16.7 感染症	□IV-16.6.4 全身性炎症反応症候群を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□全身性炎症反応症候群を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□全身性炎症反応症候群を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
	□IV-16.7.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.7.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.7.3 感染症を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□感染症を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□感染症を呈する患者における離床のリスクを予測できる予防法を列挙できる	☆
□IV-16.8 イレウス	□IV-16.7.4 感染症を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□感染症を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□感染症を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
	□IV-16.8.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.8.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇

大項目	中項目	カルテ・データ	フィジカル・スキル	レベル
	□IV-16.8.3 イレウスを呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□イレウスを呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□イレウスを呈する患者における離床のリスクを予測できる予防法を列挙できる	☆
	□IV-16.8.4 イレウスを呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□イレウスを呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□イレウスを呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
□IV-16.9 関節拘縮	□IV-16.9.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.9.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.9.3 関節拘縮を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□関節拘縮を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□関節拘縮を呈する患者における離床のリスクを予測できる予防法を列挙できる	☆
	□IV-16.9.4 関節拘縮を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□関節拘縮を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□関節拘縮を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
□IV-16.10 褥瘡	□IV-16.10.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.10.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.10.3 褥瘡を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□褥瘡を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□褥瘡を呈する患者における離床のリスクを予測できる予防法を列挙できる	☆
	□IV-16.10.4 褥瘡を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□褥瘡を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□褥瘡を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
□IV-16.11 起立性低血圧	□IV-16.11.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.11.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.11.3 起立性低血圧を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□起立性低血圧を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□起立性低血圧を呈する患者における離床のリスクを予測できる予防法を列挙できる	☆
	□IV-16.11.4 起立性低血圧を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□起立性低血圧を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□起立性低血圧を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆
□IV-16.12 浮腫	□IV-16.12.1 各検査データとフィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	□各検査データを統合し、病態・重症度を評価できる	□フィジカルアセスメントを統合し、病態・重症度を評価できる	○
	□IV-16.12.2 問題点を抽出できる	□問題点を抽出できる	□情報より問題点を抽出できる	◇
	□IV-16.12.3 浮腫を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□浮腫を呈する患者における離床のリスクとその予防法を列挙できる	□浮腫を呈する患者における離床のリスクを予測できる予防法を列挙できる	☆

大項目	中項目	カルテ・データ	フィジカル・スキル	レベル
	□IV-16.12.4 浮腫を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□浮腫を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	□浮腫を呈する患者における離床時の工夫と対処法について説明できる	☆

情報の統合

抽出された問題点
(P189にあるV章問題点抽出シートへも転記する)